



十中だより

令和3年2月1日
文責 奈加晃典

めざす生徒像

- ☆自ら進んで学び、考えて行動できる生徒(確かな学力)
- ☆勤労と責任を重んじ、礼儀正しく協力できる生徒(豊かな人間性)
- ☆自他の生命を尊重し、心身を鍛える生徒(健やかな体)

校訓

自主 協働 剛健

やればできる？

「やればできる」という言葉は、人を励ます時や褒める時によく使われる言葉ですが、実は褒めている事にならないという話があります。実は物事に取り組む時に大切な「熱意」が欠けているのでは？と言っているようなことでもあるからです。言われた人は「そうか、自分はやればできるんだ」と思うから、ここで満足、慢心してしまうわけです。やればできるということは、今やらなくてもいいということになり、先延ばしにかかります。やっていないのだから、当然周囲との差は広がり、今更やっても追いつかないという事態になります。しかし、「やればできる」というプライドがあるものだからやらない・・・やってしまうと今更やっても追いつかないということが分かってしまうから。

こんな風にならないためにも、勉強というものにどう向かうべきかを今一度考えたいものです。

できる人とできない人では何が違うのか・・・例えば成績優秀な生徒の大半は、勉強する気分になるのを待つわけではありません。勉強する時間になったら肅々と始めます。いわゆる「やる気」に依存しない環境を自分で作っています。そして、作業を始めることによって脳が、「作業興奮」という状態になり、行動の結果として「やる気」が出てきます。だからやり始めないことには「やる気」も出ないわけです。

「やる気」が不必要とは言いませんが、その気持ちは一過性のものであることが多く、「その場限りではいいけれど、すぐに冷めてしまうものである」ということを頭に入れておきましょう。勉強で大切なのは、瞬間最大風速のようなモチベーションではなく、継続できる力であり、じわじわと長く続けられる力です。

また、「失敗は成功のもと」と言われますが、どんな失敗でもいいわけではありません。「色々な失敗を初期のうちにしておく」ことが大事であって、同じ失敗を繰り返すことは何の糧にもなりません。だから単元の最初のうちにあれやこれやと失敗して間違えておくことはむしろプラスになるわけです。

「いい失敗をしている分にはいいことだ」ということを自分で認識しておくことも大事になります。



新型コロナウイルス感染症について

先日31日にプリントを配布させていただきました。十津川村の学校としての基本的な方針や、変更になった感染対策について書かせていただきましたので、ご一読いただきますよう、よろしくお願いいたします。

大阪や首都圏では、蔓延防止措置ではなく、いつ緊急事態宣言に置き換わるかも知れないほどの感染拡大が起こっています。奈良県においても、中等症・軽症の病床占有率が74%、重症の病床が41%と逼迫してきており、日々増加しているところです。また、保健所業務も人手が足らず、検査結果待ちが日々増え、プリントにも書かせていただきましたように、今後は濃厚接触者の特定も学校で行うことになったり、濃厚接触者の検査自体を行わないことにもなっていくことが予想されます。

公立高校の入試においても、当初予定では今年度中学校受検は行わない予定でしたが、このまま感染拡大が続くと、高等学校では対処しきれず、中学校受検も視野に入れて検討中です。また文科省から1月25日付けで出された対処方針では、新たに不織布マスクの推奨が書かれました。まだ感染拡大していない本校での生活では強制するものではありませんが、不特定多数が集まる入試会場であったり、県北部への外出等の場合は検討していただければ幸いです。

今後に対処方針等が変更され次第、情報発信をさせていただきます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

立春

24節季の一つである、立春が2月4日にやってきます。

「春の始まり」「1年の始まり」とされる日です。春とは名ばかりで、2月はまだまだ寒い日が続きますが、ふと気づけば、冬至の時よりも幾分日が長く感じられるのではないのでしょうか。3月21日の春分の日には、昼と夜の時間が同じになりますが、そこまではあと少し時間がかかります。

この時期になると、中田章さん作曲の「早春賦」が思い出されます。3年生の教科書に載ってますよね。もう習ったでしょうか。

♪ 「春は名のみ 風の寒さや
谷のうぐいす 歌は思えど〜」 ♪

